

来る 100 年と次の 100 年に向けて
—彦根高商の日々を知る—
その始まりをめぐって

今井綾乃 (大 58)

1 高商について

- ・官立高商 13 校
- ・3 商大
- ・外地 (台北、京城、大連)
- ・私立高商 (関西学院高等商業学部など)
- ・小樽は緑丘会、長崎は瓊林会、高岡は越嶺会など

研究動向

- ・1960～90 年代 帝国大学との比較対象
- ・2000 年代以降 高商そのものが対象

2 彦根高商資料の歴史化

滋賀大学経済経営研究所

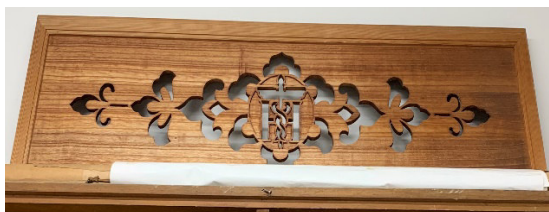
- ・彦根高商調査課からの流れを汲む／生徒や教官の調査研究の支援・資料収集



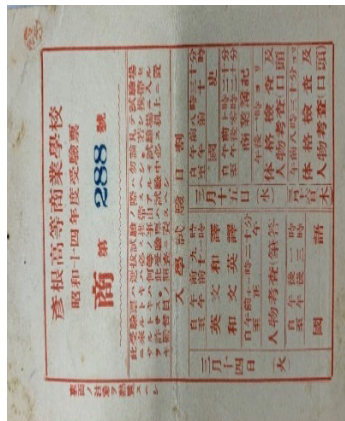
(彦根高商卒業アルバム 1927)



・高商由来の資料は「古いモノ」⇒ 2000年代、彦根高商を捉える歴史資料として認識



・2018年、100年史に向け陵水会館、体育会や学生会、新聞部の部室にあった資料を調査



今後、歴史資料の保存をどうしていくのか（小樽は100年史編纂室、長崎は瓊林会館）

3 今回の報告「彦根高商の始まりをめぐって」

彦根高商の沿革

1923（大正 12）年 4 月	第 1 回入学式（入学者：151 名） 修業年限 3 年 商業と高等教育を
1927（昭和 2）年	別科（修業年限 1 年）を設置（入学者：103 名）
1939 年	本科第 2 部支那科（修業年限 3 年）を設置（入学者：58 名）
1941 年	本科第 2 部支那科を本科第 2 部東亜科に改称 勅令 924 号「大学学部等ノ在学年限又ハ修学年限ノ臨時短縮ニ関スル件」 ・本科 17 回生：1942 年 3 月卒業予定 →3 か月短縮 ・本科 18 回生以降：1943 年 3 月卒業予定 →6 か月短縮
1944 年	「教育に関する戦時非常措置方策」 彦根工業専門学校へ転換、彦根経済専門学校に改称し募集停止

始まりをいつにおく？

- ①1923 年 4 月 / 第 1 回入学式
- ②1922 年 10 月 / 勅令第 441 号「高商を彦根に設置する」
- ③誘致運動

（1）学校史（『陵水三十五年』・『陵水六十年史』・『滋賀大学史』）

・1912（大正元）年

滋賀県が高等商業学校の設置を政府に要望
（近江商人を生んだ場所であることを背景）

・1919 年

原内閣が高等教育充拓計画を推進
滋賀県に第 9 高等商業学校設置
設置条件として寄附金を要求
大津、八幡、彦根の誘致合戦へ

彦根による 5 つの運動

- 高商の設置を蒲生郡以北七郡のいずれか
- 50 名の委員が寄附金集めに
- 委員が在阪実業家を説得
- 犬上郡内有力者による政友会へ鞍替え
- 彦根が寄附金 48 万円と敷地 1 万 6000 坪を提供

（2）引き継ぎつつ、新しくどのように歴史を描くか

①彦根への決定

・『京都日出新聞』1919 年 2 月 10 日 / 9 日、文部省が滋賀県知事を介して行われた

②敷地の候補地

・学校史 / 千鳥ヶ丘・中島町 ・『京都日出新聞』 / 当初 10 か所以上の候補地

③寄附金

・学校史／

1万円以上の寄附者 26名／名前 当時1万円≒約500万円

『近江実業新聞』（1920年11月7日）を掲載

「奔走尽力した有志と逡巡することなく犠牲を払った地方民衆の存在があった」

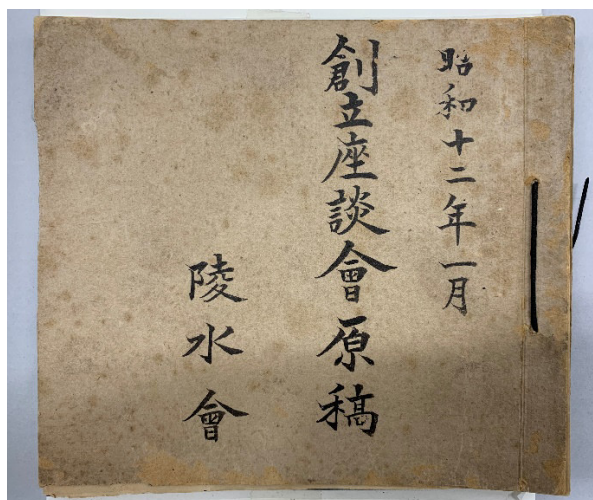
・『近江実業新報』（1920年11月7日）

238名による寄附金 約44万円≒約2億2000万

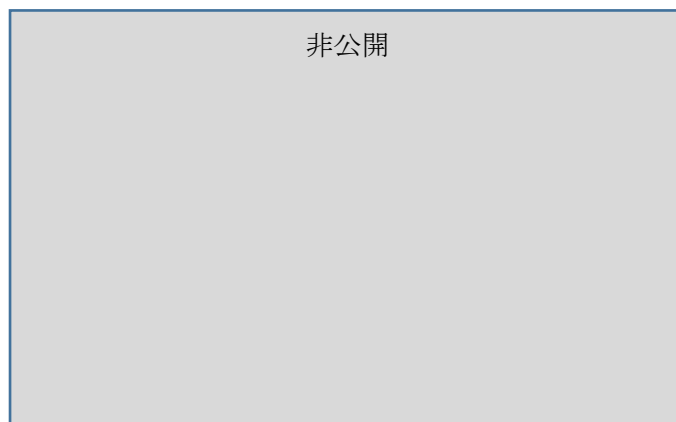
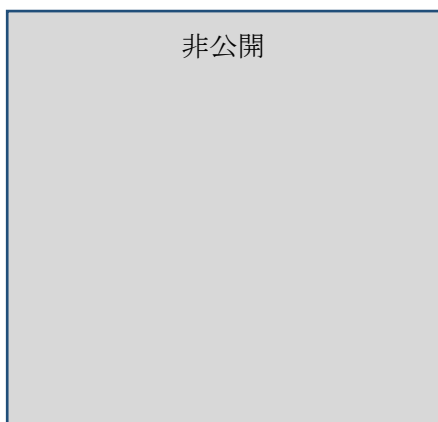
有力者26名による寄附金は全体の75.8%

彦根町民102名によって約1万1513円 ⇒女性の名、100円

④学校史の記述 ⇒『創立座談会記録』



⑤ 反映





▲彦根高校卒業アルバム『07-H.C.C.2595』 図書閲覧室



▲彦根高校卒業アルバム『03-PRO MEMORIA 1929』 図書閲覧室



▲彦根高校卒業アルバム『07-H.C.C.2595』

▲彦根高校卒業アルバム『07-H.C.C.2595』



▲彦根高校卒業アルバム『15-LA MEMORIA HCC 1933』 運動会

出身地：滋賀 (22.9)・大阪 (9.4)・京都 (8.5)・愛知 (8.0)

就職先：大阪 (31.4)・兵庫 (11.6)・東京 (11.0)・愛知 (11.0)・・・滋賀 (5.3)

4 おわりにかえて



資料はすべて滋賀大学経済経営研究所、陵水会所蔵。写真の一部は同所企画展・今井監修
「【しんぶんし】原紙にみる彦根高商報道」パンフレット